



からしだね

2017年12月号
(533号)

キリストの受難 カトリック池田教会

共同宣教司牧：畠 基幸 神父・中村克徳 神父

協力司祭：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://www.ne.jp/asahi/catholic/ikeda/church/>



本号の記事の主題など

- 畠 基幸神父による巻頭言2、3
- 「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、み心にかなう人にあれ」
- 貧しい人のための世界祈願日の共同祈願・・・3
- ノノイ神父歓迎会と敬老の集い 4
- 秋のチャリティ・バザー..... 5、6
- 樹木剪定で教会に蘇る自然.....7

- デニス神父さまとの再会8
- 大人の日曜学校だより9
- 「みんなの談話室」..... 9
- デニス神父様通信、南アフリカの子供たち
- 12月の教会カレンダーへの追加と変更.....10
- 待降節にゆるしの秘跡が受けられます.....10
- ドレミの会からのお願い.....10

巻頭言

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、
み心にかなう人にあれ」(ルカ 2章 14節)
—クリスマスは、神の愛の秘跡を祝う—

畠 基幸 C.P.

皆様、神の御子の誕生を祝うクリスマスが近づいてきました。神の子イエス・キリストを告げ知らせることは「福音の初め」(マルコ1章1節)です。マルコの福音書には、マタイ福音書やルカ福音書のような誕生物語はありませんが、イエスは神の愛する子、御父の心にかなう者として生まれ、その生涯は十字架の死にいたるまでの具体的な神の愛の証しとして生きた神の子の福音(善き便り)が描かれています。誕生物語は、それ自体、御子を与えるほど世を愛された(ヨハネ3章16節)御父の「神の愛」の福音です。コンパクトにまとまっていて、さまざまなシンボルと象徴に満ちています。福音書は、2000年前の歴史上の人物に焦点を置くが、歴史書ではなく、歴史の出来事の中に実在する神とそのお方の愛を伝える物語です。だから一年の初めと終わりは神の愛と信仰の神秘を黙想するよい機会となります。待降節から主の降誕、そして降誕節の典礼暦には、幼子殉教者、聖家族、神の母の祭日、公現祭と祝祭で満ち溢れます。

「神の愛の信仰の神秘」とは、大げさな言い方かもしれませんが、日々が過ぎていく中で、いったい何が残るのか? 誕生日や年の瀬に、この一年がただ忙しく過ぎてしまった一年か、よい一年だったか思い起こすなら、何か心に触れる出会いが一番記憶に残る出来事でしょう。その出来事の中に神の愛が実在して、その出会いは、わたしに仲介して<主が>わたしに語りかけているのではないか。いろいろな人との出会い、書物との出会い、自然界や世間との出会いの中に神の愛の秘跡があるのです。神の愛の秘跡は小さなものの中にも神がおられることを教えます。

サイコロの会で、遠藤周作の「沈黙」を見に行きました。神は決して「沈黙」されていないと感じました。ロドリゴは極限まで追い込まれ、フェレイラから、「基督は愛のために、人々のために、確かに転んだだろう」と諭される。「今まで誰もしなかった一番辛い愛の行為をするのだ」「さあ、勇気をだして」。ロドリゴは、振り返って、イエスの人格、み顔を思い起こす。「踏むがいいとその時、銅版の基

督は司祭に向って言った。お踏み。お前の足の痛さをこの私が一番よく知っている。踏むがいい。私はお前たちに踏まれるため、この世に生まれ、お前たちの痛さを分かたため十字架を背負ったのだ」。教皇フランシスコの罪びとに寄り添う一貫した態度には、語りかけるイエスのことばが響いているように感じた。

ユスト高山右近の列福も大きな恵みだった。迫害の中でも家族が一つの信仰を守り抜いた。高山右近が400年を経て福者に列せられることで、16~17世紀前半の日本の教会とその同時代の西欧の教会の歴史が姿を現してきました。今年ルター教会改革からちょうど500年の記念の年、16世紀は墮落した教会を改革しようとした時代でした。しかし、中世から近代へと移行する時代、認識の問題に目覚め、個人の意識、宗教的真理よりも自然科学の発展が始まった時代。新井白石は、シドッチ神父の自然科学の博学に敬意を表したが、創造主の信仰を聞いて笑ってしまった。神学生の時代、まったく興味が湧かず、無関心で一夜漬けの試験勉強で通過してしまったが、この近代の哲学や教会史の中に現代の複雑化した心の回路をどく鍵があるのではと思い、今年、何度か教会史の教科書や哲学史の教科書にチャレンジしました。もう若くなく脳はあまり働かないので眠るばかりです。

回勅「ラウダート・シ」を取り上げ、上智大学教授の瀬本正之神父さんに講演を願ってかなえられた。それと平行して、読書会も立ち上がり、細々としたしかし確実に前進して毎回目が開かれる喜びがある。それぞれ自由に意見を交わすのは真理を学ぶことになり楽しいのです。教皇の「使徒的勧告福音のよろこび」の4原理、時は空間に勝る、一致は対立に勝る、現実には理念に勝る、全体は部分に勝るがこの回勅でも適用され、背景にあるのは気づかなかった。これからは教皇の文書を読むときは、この考え方を発見するよう努めよう。

夏のキャンプ、子供たちのお泊り会は、会うごと

に子供たちの成長が見られる。まず身長がぐんぐん伸びて、私を超えていく。抜かれていく事が、とても楽しい。親は子供が自分を追い越していくことを期待し喜びとしているのはなんとなく分かる。子供の幸せがそこにあると信じられる。

ホスピス病棟に入院した信者さんの看取りも大きな出会いでした。復活祭や被昇天のお祝いにはミサに与り、11ヶ月に及ぶ闘病生活を静かに見据えながらまた一人、天の国に旅立っていられました。ドレミの会は、あまり出席できなかつたが、知り合いになると人懐っこい。とにかく集まることに、喜びがあり、子供たちが歌って踊って楽しくするのが天国の感じです。夏には、御受難会士として60年に及ぶ日本での宣教師、そして教誨師として服役中の受刑者の訪問面談を30年に及び奉仕したレオナルド神父の葬儀にデニス神父と一緒に参列した。神父さんは車椅子なしでは生活できない毎日ですが、皆様のことをいつも心にとめて、昔のことを忘れないで対話されているようでした。

アルファ・コースや青年のカテキズム入門、福音深読、入信希望者用コース、洗礼後秘儀教話コースといろいろ顔を出して、教えることに喜びも感じるようになっていきます。以前は、教えることは苦手でした。まだ真理を知らない盲人が盲人を導くことになるのではと、それゆえ、わたしのつたない知識

や考えはできるだけ伏せて、学者や賢人の書物やことばを寄せ集めて資料を作って渡してただけでした。振り返ると、池田・日生中央教会の司牧を担当して11年を過ぎてしまいました。「愛は口先だけでなく、行いである」とフランシスコ教皇は諭されます。毎日が母親からしかられるようなチャランポランな神父で何もできなかったのですが、皆様の温かいまなざしと期待で、皆様に出会い、わたしもまたくあなたに仲介する> 神の愛を伝えることができたのであれば、それは過分の喜びとなります。

何よりも皆様のために、皆様と共に、神の愛の秘跡を私たちの感謝のいけにえとしてたゆまなくささげることには力を尽くしてきました。クリスマスは、御父に忘れてご自身をささげられた最初のキリストのミサを祝います。今年一年、皆様との出会いの喜びも別れの悲しみも主イエスと共に感謝の心でささげます。皆様 ありがとうございます。

ナザレの聖家族よ、
わたしたちの家庭をも
交わりの場、祈りの高間、
福音の学びや、
そして小さな家庭の教会としてください。
(教皇フランシスコ)

「貧しい人のための世界祈願日」の共同祈願の例文

年間第33主日

教皇フランシスコの意向により、本年から年間第33主日を「貧しい人のための世界祈願日」とし、ともに祈りをささげることになりました。追加された11月19日の共同祈願の例文は次の通りです。

- ・ 教皇フランシスコの呼びかけに応え、わたしたちが、ことばや口先だけでなく、具体的な行いをもって貧しい人を助けることができますように。
- ・ 世界の指導者が、現代社会の中にある不正義や不法行為、人間の尊厳を傷つける搾取、道徳的な退廃、一部の人に見られる傲慢

や強欲、ますます一般化する無関心など、貧しさを生み出すあらゆる原因を見だし、互いに協力して取り除いていくことができますように。

- ・ わたしたちが、真の貧しさのあかし人であるアツジの聖フランシスコの模範に従い、貧しい人の中におられるキリストに気づき、互いに仕え合うことができますように。
- ・ 日々、主の祈りをとおして、「日ごとの糧を今日もお与えください」と祈るわたしたちが、恵みとして与えられた糧を「わたしたちのもの」として分かち合い、あらゆる種類の利己主義を克服することができますように。

合同開催されたノイ神父歓迎会と敬老の集い

9月中旬に池田教会の共同司祭チームに加わったノイ神父は既に池田教会でお馴染みですし、ノイ神父の自己紹介は「からしだね」531号の誌面で紹介されています。

9/17に予定されていた池田教会主催の歓迎会兼敬老の集いが台風18号の接近のために延期されていたので、一月遅れの10/26にカール記念館ホールで開催されました。その日も大型台風21号が潮岬沖を通過したために激しく雨粒が落ち、強風が舞ったが、カール記念館の一階はノイ神父との交わりを求めた人々と集いに参列した沢山のシニア信徒による喜びの会話と歌が続き、記念館の床は人々で埋め尽くされて、歩くのが困難な程でした。

感謝の祈りに先立ってなされたノイ神父のところに響いたスピーチをお読みください。

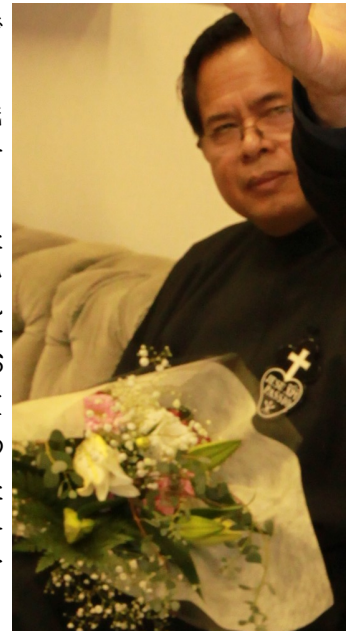
「兄弟姉妹のみなさん！

池田教会に、また来ることができて、嬉しいです。前回、わたしが、ここに来た時から、ずいぶん時間が経ったと思います。これまでの2、3年間

は、わたしは、東京で奉仕していたので、池田教会に来る機会が、あまりありませんでした。

しかし、今回、わたしは、もう少し長く、皆さんと、ここにいることになると思います。お互いに会って、ともに働き、信仰者の一つの共同体として、わたしたちの主、イエス・キリストの足跡に従っていきましょう。

わたしにとって、みなさんの言葉、日本語を勉強することは、とても大変です。「でも、がんばります！！」だから、わたしに欠けているところを、どうか補って助けてください。わたしも、皆さんと分かち合えることを、分かち合いたいと思います。



12月のガラスケースのことば

神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された。
独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。

ヨハネ 3:16

秋のチャリティーバザー

「愛とつくしみのひと時に一福者高山右近にならおう」

10月22日ミサ後、恒例のチャリティーバザーが開催されました。当日は「台風21号近畿地区上陸か…」との台風情報が伝えられ、朝から本降りの雨にもかかわらず大勢の方が参加されました。

カール記念館入り口には東北物産展、10円陶器市、ホットフランクの店が並びました。ホットフランク売り場では今年もデニス神父の人形がお手伝いしていました。ホールでは手作りクッキー、ケーキ、紅茶、コーヒー、台所のカウンター前ではおでん、カレー、おにぎり、ジュース、お茶が販売され、バザー開始早々ホールは人でいっぱいになりました。2階では古着市、蚤の市と例年どおりの出店でにぎわいました。バザーで働くのは大人だけではありません。階段上のスペースでは日曜学校の子供たちが中古や新品の学用品やおもちゃを販売しました。

今年の新しい試みとして、入り口でビニールのシューズカバーが配られました。例年ならビニール袋に自分の靴を入れて持ち歩いていたのですが、靴の上からシューズカバーをはくだけでどこでも行けるので荷物が少なくなり好評のようでした。もう一

つの新しい試みは社会活動委員会による買い物の取り置きです。「当日買った物を一階の和室でお預かりします。後日都合のいい時に取りに来てください」とミサ後にお知らせがありました。こんな雨の日にはありがたい、なかなか気の利いたサービスです。12時を過ぎたころから、随所に貼られた誘導ポスターに従い、聖堂内に並べられた高山右近の展示を楽しみながら、マリア幼稚園のお父さんお母さんが子供たちと一緒に大勢来られました。子供たちの声がホールに響き、急ににぎやかになりました。

13時にはほとんどの店が売り切れとなり13時半には片付けが始まりました。男性陣の手でホールのイスとテーブルがあつという間にコの字型に並べ替えられて、いつものホールに戻り、バザーは無事終了しました。

社会活動委員会からも、感謝の言葉が寄せられました。

「バザー当日、各売り場に宝塚、その他地区、中高生のお手伝いを頂き大変有難く、お礼申し上げます。また、今年も皆様にたくさんのお買い上げを頂きお礼申し上げます」

バザーに集う人々の姿 カール記念館一階と聖堂において



チャリティーバザーには多様な参加の姿がありました。その全部を写真に写すことができませんでしたが、参加者それぞれの活動的な姿をごらんください。
また、バザー委員会が用意した展示物と誘導立札がマリア幼稚園の「マリア祭」に参加された多くの親子連れを教会へ導きました(右と下の計3枚の写真)。



樹木剪定で教会に蘇る自然

池田教会の樹々の秋の剪定が今年も10月24日(火)に行われました。アラガシやモチノキ、マキ、クスノキの剪定はシニアの職人さんが行い、一部の信徒もサツキなどの低木の樹形を剪定ばさみで整えました。切られた枝・葉を集めて、袋詰めにする作業は中村神父を筆頭に信徒(男性・9名と女性・11名)が9時半ごろから15時近くまでの長丁場で汗を流しました。昼時には毎年のごとく5名の女性信徒が腕を振った昼食を用意してくれました。

池田教会の3つの建築物(聖堂、司祭館、カール記念館)の間には美しい高木や多種多様な背の低い樹々や草花が植えられています。また、敷地が面している公道沿いにはカイズカイブキの生け垣や老木の域に達したといえソメイヨシノがあります。池田教会の所在地の近くには、多くの商業施設、観光施設、人々のための役所、近隣の5つの市・町との間を結ぶ私鉄の駅、多くのバス路線のターミナルがあつて、教会が面する東側の公道を行く人々は、開かれた教会門付近から見える背の高い樹木や道路わきの生け垣と点在する草花に心を和ませていることでしょう。

その樹々は年一度の剪定という点検と再生のための今回の作業や樹木医の診察によって今年には三つの変化を見出し、事故1件が起きています。
①評議会の報告にもある様に、年輪を重ねたソメイヨシノやアラガシのように労わる必要が出てきています。

②司祭館の玄関へ向かう小径の左右にある3株

のツバキと1株のサザンカに発生した茶毒蛾の幼虫を駆除されていた3名の方が皮膚に赤い湿疹が出て、1週間も痒みに苦しめました。葉裏に産み付けられた径1センチ、淡黄色、フェルト状の卵が幼虫に孵化する前に葉を切り取り除去するためには、4月～5月と8月～9月の点検が必要です。本年は5月末と大掃除が行われた9月末の計2回も5ミリ～10ミリの幼虫になるまで気づかず、9/24の大掃除の際に被害を受けました。

③この4年間は全く花実をつけなかったモチノキにわずかですが赤い実が育ったことが確認されました。赤い実の実りが昨年の剪定を徹底しなかったために昨春の新枝の一部を越年させて今春にその枝に開花させたためなのか、教会のモチノキが雄株のためなのかは未確定なのです。

④カイズカイブキの生垣の門より南側(聖堂横)の生け垣に発生したビャクシン(イブキ)の尖った針葉(これは「先祖返り」と呼ばれています)を幹近くの根元から切断した功が奏して今年是最南端の4つの株を除いて差し木で育ったカイズカイブキの柔らか葉を持つ枝だけが成長しました。しかし、門より北側(カール記念館横)の一見美しい生け垣に、今年になって針葉を持つ枝の発育が柔らか葉を持つ枝の発育を圧倒しましたので、針葉を着けた枝を幹近くの根元から剪定し、下部の幹に新たな柔らか葉を持つ枝が発芽するように、今回は、上面と東側面の先端の透かし枝剪定を行って生垣内部の幹から新枝の発生を促しました。来春に新枝の発芽がなければ、植物成長ホルモン剤メネデルを塗布が必要になるかもしれません。



(上)モチノキの小さな赤い実が何故か切り落とされていた。5年振りの結実だったのに……。

(左)正門より南側のカイズカイブキ(生け垣)を剪定して、作業を終える。

デニス神父さんとの再会

御受難修道会 Fr. 畠 基幸C.P.

この夏8月3日に長く日本で活動を共にしていたレオナルド・コサカ神父さんが亡くなり、その葬儀に出席するため日本準管区長の山内十束神父の代理として、8月5日の早朝に米国へ出発しました。同日の夕方ケンタッキー州レイビル市に到着。夕食が終わる6時半ごろ、セクレッド・ハート・ホーム(聖心の家)を訪れデニス神父さんに11か月振りにお会いできました。私の到着は、すでに日本からのメールで通知されていて、いまかいまかと心待ちにしておられました。

ホームは、平屋建ての施設で、前回のデニス神父さんの便りにあったように快適な部屋と十分な食事と介護が受けられるところです。建物はかなり奥行きがあり、いくつかのセクションを通過したあと、ようやくデニス神父さんの部屋にたどり着きました。



看護師や介助者が入れ替わり立ち代り部屋に入ってきて、皆さん一様に「この神父さんは日本にしか心がありません。一日中、日本に帰ることを話していますよ。」とデニス神父さんの様子を教えてくださいました。デニス神父さんも、新しい修道院の建設の進捗状況を尋ねてきます。「私は突然こちらに来ることになってしまった。まだ日本にはやり残したこともあるし、皆さんとの交わりが生きている。」と話してくれました。久しぶりに日本語で話し始めてみて、余計に日本でのたくさん思い出が湧き起こってきたようでした。

デニス神父さんは部屋で歩行器の足が滑って転倒した際、右腕の上腕を骨折し、今はボルトで固定されているため肩より上に手を挙げられないとのこと。隣の部屋に滞在していたシスターが、夜中にデニス神父さんの部屋の大きな音を聞きつけて、ヘルパーに連絡してくれたお陰で大事に至らなかったそうです。それでも私の右手を握って握力は私よりはるかに強いことを証明して見せました。

デニス神父さんの一日は、大きなテレビ画面の前で、ニュースを見るか、IpadやIphoneのメールを見ているくらいで、退屈な毎日がつらいことがよく分かりました。

8日の葬儀の日には、レオナルド神父のお別れとミサにデニス神父さんも元気に車椅子で参加し、その日の昼食を一緒にして、5日間の米国滞在を終えて帰国の途に着きました。



最後に、レイビル市のことを少しだけ紹介します。レイビル市は野球バットの生産が有名で、トマス・マートンの修道院やボクシングのモハメッド・アリの墓地、南北戦争の南軍と北軍の両方の戦死者の墓地がある珍しい所です。カトリック信徒の多い、静かな緑溢れる町です。

どうぞ皆さんもデニス神父さんが住むレイビルを訪問してください。

(この記事は“ME関西WEBニュースNo.2(10月号)-MEの風-”から許可を得て転載したものです)

「大人の日曜学校」だより 11月 福音の分かち合い

「持っている者はさらに与えられるが、持たない者はもっているものまで取り上げられる」
(マタイ 25・29)

この週のみことばは(今回は少ないメンバーでしたが)、私たちにとっても難しい箇所でした。“弱きを助け、強きをくじく”いつものイエス様なら、すぐに受け入れられるのですが、“もうけが足りない”と、たとえ話を用いる中で、お叱りになられたからです。

しかし、このようなきびしさや難解さは、さかのぼれば、旧約聖書(当時はユダヤ教の聖書)にも多く見られます。そして、イエスご自身、敬虔なユダヤ教徒であった。またそのことには、母マリアの影響があったかもしれません。

例をあげるなら、ルカによる福音書の中の、受胎告知の場面で、マリアは「私は主のはしためです」といっていますが、ギリシャ語原文では奴隷(δούλος)の女性形(δούλη)と書かれています。よって、(主に対しては)「自分は奴隷にすぎない。」マリアは、そう天使ガブリエルに答えている。

それほど(大胆な表現を用いるほど)強固な信仰(信念といつていいかもしれない)をマリアが持っていたことは、あるいは、明確に書かれている事実は、母マリアがどういう人であったか、そして、そういった家庭環境が、その後のイエスご自身のパーソナリティーが形成されるうえで、どのようにはたらいたかを考えるとき、重要な手掛かりになるかもしれません。

私たちは、そのことを深く受けとめ、主をおもい、これから主のご降誕を待ちのぞみたいと思います。

研修委員会

みんなの談話室

デニス神父様通信……11月7日受信

私がデニス神父様の事を「からしだね」に載せていただいたためでしょうか、神父様の近況を私に尋ねる人が増えました。神父様とメールのやりとりをしているのは私だけではないと思いますが、時々「デニス神父様通信」のような形で皆さんにお届けするのが良いのでは…と考えました。

喜びのメールでした。11月19日のお誕生日に妹さんご家族が神父様に会いに来られるというものでした。11月19日で神父様は90才になられます。日本流に言うところ「卒寿」を迎えられます。日本のような特別な言い方があるのかどうかは分かりませんが、アメリカでも節目のお誕生日は特別なのか沢山の友達からバースデイカードをもらうのが嬉しいようで、沢山の知人や友人に呼びかけるようです。神父様は1927年11月19日セントルイスで誕生されています。

今回私に届いたメールでは、90才になられる喜びと、妹さんご家族に会えると言う喜びが短い文章からもひしひしと伝わって来ました。以前、妹さんとの再開がままならない由を寂しそうに話していらした神父様です。昨年のおクリスマス以来の再開だとか、本当に良かった「神に感謝！」と言わずにはられません。

神父様のお喜びを私たちにも分けてくださいとお返事しました。

神様の豊かな祝福がありますように。

北村

南アフリカの子供たち

クリスマスカードを送っているセント・フランシス・ケアセンターから子どもたちの写真が届きました。皆さんの思いがこの子たちに力を与えてくれることと思います。たくさんの方のカードをありがとうございました。

器具を使って立っている写真の女の子、ドウドウジレは病気の後遺症で体が半分動きません。彼女は寄宿制の特別支援学校へ通っています。今年から国際ソロプチミストが学校に通うのに必要なお金を彼女に支援しています。支援基金は、彼女が卒業するには足りませんが、支援を続けていける手立てが見つかればいいと願っています。どうぞ、彼女の健康と健やかな成長をお祈りください。

久保 昌



12月の教会カレンダーへの追加と変更

12月2日「ラウダート・シを読み合わせ会」14:30～
12月3日 9時からのミサ後、社会活動委員会の呼びかけによる歳末助け合い街頭募金。

12月8日「福音書を学ぶ会」 14:00～16:00.

待降節の主日のミサとゆるしの秘跡

12月9、16、23日(土) 神父に申し出て、17時より、個別に、ゆるしの秘跡をうけられます。

12月10日(日) 11時から主日のミサが始まり、共同回心式もあり、その後に個別に、畠・香山両神父によるゆるしの秘跡を受けられます。

12月17、24日(日) 9時からの主日のミサ後に、個別に、ゆるしの秘跡を受けられます。

待降節にゆるしの秘跡を受けられます

待降節の黙想会(11/26)におけるゆるしの秘跡をうけられるのは7名に限られています。神父様方の計らいによって、待降節中(12/3～12/24)にゆるしの秘跡を受ける機会が増やされましたので、12月のカレンダーに追加されたゆるしの秘跡の項を参照してください。

研修委員会

宝塚黙想の家から黙想会のお知らせ

■日帰り黙想会

12月21日(木) 10:00～15:30

12月22日(金) 10:00～15:30

指導:山内十束神父



各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。 ☎0797(84)3111

表紙の絵について

オランダの初期フランドル派の画家、ヘラルト・ダヴィト(1455?～1523)が1480年代初めに、板に油彩で描いたもの。マリアとヨセフ、羊飼いたちがご降誕のイエスを見守り、二人の小さな天使が拝んでいる。連続した絵の一枚ではなく単独の作品で、個人的な祈りの場にあつたと思われる。メトロポリタン美術館所有。www.metmuseum.org

ドレミの会からのお願い

子どもたちへのプレゼントを!

12月9日(土)ドレミの会のクリスマス会が、行われる予定です。ドレミの会の子供たちに渡すプレゼントのお願いです。

もしお家に眠っている小物がありましたら、ご寄付ください。27～8人参加し、男女半々くらいです。年齢は20代、30代が中心になっています。

いつも皆様の暖かな応援に感謝しています。12月9日午前中まで受け付けます。一階和室に段ボール箱を置きますので、その中に入れてください。
ドレミの会

編集後記

いよいよ今年も待降節が近づいてきました。毎年、この時期になるとワクワクします。子供の頃はクリスマスプレゼントに思いを馳せ、大人になり親となった今は、子供の嬉しそうな笑顔が何よりのプレゼントです。きっと神様もたくさんの愛を私たちに届けるため、クリスマスにイエスさまを贈ってくださいたのですね。私たちの笑顔で神様も喜んでくださっているかな?

子供が先日、自ら「肩もみしてあげるね」と初めて言ってくれました。赤ちゃんの頃から泣いてばかりいた子供が、力強く肩を叩いてくれた事に涙が出ました。誰かを思い遣ることができる事は、あたたかく、幸せなことです。

神様のとても素晴らしいプレゼントに感謝し、あたたかな気持ちで世界中の人たちがクリスマスを迎えられますように。

Ana